

# 頭も体も

# フル回転

ペアになった参加者で大きな円をつくり、全員が同じ方向に同じ振り付けで踊る「ラウンドダンス」。その全国大会「第31回全日本ラウンドダンス・コンベンション in 別府」(日本ラウンドダンス協会主催)が

11~13日の3日間、別府市のビーコンプラザで開かれる。県内開催は初めて。協会九州支部の主管で、支部長で実行委員長を務める光延民子さん(77)＝大分市長浜町＝らが準備を進めている。

## 別府で全日本ラウンドダンス



### 11~13日「魅力を知って」

ラウンドダンスはアメリカ発祥で、日本ではフォークダンスの部門として始まった。ワルツやルンバ、タンゴなど世界中のリズムに合わせて踊り、「キューイング」と呼ばれる指示に従ってターンしたりステップを踏む。

光延さんのラウンドダンス歴は約25年。フォークダンスを習う中で始め、「キューを聞いて踊るといのがすごく面白い」と感じたのがきっかけでのめり込んだ。1995年に興味がある仲間と共にサークル「ラウンドハーモニー」を結成。その後、自宅を改築して練習場を造り、現在は約30人のメンバーを指導しながら楽しんでいる。

大会には全国から300人を超えるインストラクターやダンサーが集まる。国内でも有名なインストラクターのデモンストレーションや、難易度別のワークショップなどが開かれる。

県内にもいくつかサークルはあるが認知度はまだ低く、「どうすればたくさんの人に浸透するかいつも考えている。この機会に魅力を知ってもらい、競技人口を増やしていきたい」と張り切っている。

3日間いつでも観覧できるチケットは2千円(前売りのみ)。問い合わせは光延さん

メンバーの多くはシニア層だが、40代の若手も活躍しており、「体も頭もたくさん使い、

52112)へ。

(097・536・

(松原佐江子)

練習に励むラウンドハーモニーのメンバー。右端が光延民子さん＝大分市長浜町